



運用管理装置「PMANモデル50/100」

Systemwalker 連携ソフトウェアガイド

富士通株式会社

変更履歴

No.	文書番号	日付	変更項目	変更箇所
1	PSW-FFC-1300-0002-R00	2006.08.18	初版	全頁
2	PSW-FFC-1300-0002-R01	2007.10.02	Linux サーバ対応	全頁
			Windows 用電源切断コマンド対応	全頁
			Solaris 用電源切断コマンド対応	全頁
2	PSW-FFC-1300-0002-R02	2008.06.03	WindowsServer2008 対応	2.1.1 サポート OS 2.4 インストール 5.1 アンインストール
3	PSW-FFC-1300-0002-R03	2008.06.06	サポート OS の誤記修正	2.1.1 サポート OS

はじめに

本書は、運用管理装置PMANモデル50/100（以降、PMAN装置と称します）の Systemwalker 連携ソフトウェアのマニュアルです。

■ 本書の目的

本書では、Systemwalker Centric Manager のリモート電源制御機能及び Systemwalker Operation Manager の各電源制御機能（スケジュール電源制御/一括電源制御）を用いて、サーバ機(Windows/Solaris/Linux)に接続しているPMAN装置を制御するために必要な情報が記述されています。

■ 本書の対象者

- ・本連携ソフトウェアを用いてサーバの電源制御を行う運用管理者の方
- ・本連携ソフトウェアを用いて運用管理システムの構築を行う方

■ 本書の構成

1. 概要

Systemwalker 連携ソフトウェアの概要について説明しています。

2. インストールの準備

本ソフトウェアをインストールする前に確認する項目について説明しています。

3. インストール

本ソフトウェアのインストールについて説明しています。

4. Systemwalker の設定

本ソフトウェアを動作するための Systemwalker の設定を説明しています。

5. 留意事項

本ソフトウェアを運用する上での留意事項について説明しています。

6. アンインストール

本ソフトウェアのアンインストールについて説明しています。

■ 関連マニュアル

本マニュアルを読むに当たって、以下のマニュアルを予め読むことによって、本マニュアルをより深く理解することができます。

- 「POW-FFC-E-0031 運用管理装置PMANモデル50/100 ユーザーズガイド」
- 「POW-FFC-E-0032 運用管理装置PMANモデル50/100 コマンドリファレンス」
- 「LA91001-0202 運用管理装置PMANモデル50 取扱説明書」
- 「LA91001-0184 運用管理装置PMANモデル100 取扱説明書」
- 「LA91001-0185 コンセントボックス1 取扱説明書」

お願い

- ・ 本書を無断で複写または他に転写しないでください。
- ・ 本書は予告なく変更することがあります。

Microsoft, Windows, Windows Vista, Windows Server, Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

Solaris は米国 Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標又は商標です。

Red Hat は、米国その他の国で Red Hat, Inc. の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

All Rights Reserved, Copyright © FUJITSU LIMITED 2008
Copyright 2008 FUJITSU ADVANCED ENGINEERING LIMITED

目次

1	Systemwalker連携ソフトウェアの概要	7
1.1	Systemwalker Centric Manager連携によるリモート電源制御動作	8
1.2	Systemwalker Operation Manager連携でのスケジュール電源制御動作	9
1.3	Systemwalker Operation Manager連携での一括電源制御動作	10
2	環境設定	12
2.1	システム設定の確認	13
2.1.1	サポートOS	13
2.1.2	サポートするSystemwalkerのバージョン	15
2.1.3	システムの確認	15
2.2	PMAN装置の設定の確認	16
2.2.1	ファームウェアバージョン	16
2.2.2	PMAN装置の動作設定	16
2.2.3	通信ポート	16
2.2.4	PMAN装置の認証	16
2.3	Systemwalkerの設定	17
2.3.1	Systemwalker Centric Managerの設定	17
2.3.2	Systemwalker Operation Managerの設定	17
2.4	Windows機へのインストール	20
2.4.1	インストール手順	20
2.4.2	注意事項	21
2.5	Solaris/Linux機へのインストール	22
2.5.1	インストール手順	23
2.5.2	注意事項	24
2.6	MpStrSv.iniファイルの設定	25
2.6.1	MpStrSv.iniの記述方法	25
2.6.2	注意事項	26
2.7	MpStpSv.iniファイルの設定	27
2.7.1	MpStpSv.iniの記述方法	27
2.7.2	注意事項	27
2.8	PMANCOM.iniファイルの設定	28
2.8.1	MpSetup設定ツールの使用方法	28
2.8.2	PMANCOM.iniファイルの説明	29
3	運用	31
3.1	電源投入コマンド	31
3.1.1	電源投入コマンドの使用方法	31
3.1.2	ログメッセージ	32
3.2	電源切断コマンド	34
3.2.1	電源切断コマンドの使用方法	34
3.2.2	ログメッセージ	35

4	留意事項	37
4.1	通信ポートについて	37
4.2	PMAN装置のスケジュール設定	37
4.3	PMAN100のキースイッチについて	37
4.4	運用中のtelnet接続/管理COM接続	37
4.5	PMAN装置の共通設定について	37
4.6	MpStrSv. ini、MpStpSv. ini ファイルのエラー行以降の処理について	37
5	アンインストール	38
5.1	Windows機でのアンインストール	39
5.2	Solaris/Linux機でのアンインストール	39

1 Systemwalker 連携ソフトウェアの概要

本連携ソフトウェアは、Systemwalker Centric Managerのリモート電源制御機能、またはSystemwalker Operation Managerのスケジュール電源制御機能、及び一括電源制御機能を用いて、各種サーバ機 (Windows/Solaris/Linux) に接続しているPMAN装置の制御を行います。

Systemwalker Centric Managerにおけるリモート電源制御機能は、Systemwalkerコンソールまたは運用管理クライアントから、部門管理サーバまたは業務サーバ等の電源投入/切断を行うものです。本連携ソフトウェアでは、上述のリモート電源制御機能により、サーバ機の電源制御をサポートします。

Systemwalker Operation Managerにおけるスケジュール電源制御機能は、Operation Managerクライアントから、Operation Managerサーバの電源制御スケジュールを設定し、このスケジュールに従って電源切断/投入が行われるものです。

また、Systemwalker Operation Managerにおける一括電源制御機能は上述のスケジュールに従った電源制御動作時にOperation Managerサーバに登録された複数のサーバ機を一括して投入/切断するものです。

1. 1 Systemwalker Centric Manager 連携によるリモート電源制御動作

Systemwalker Centric Manager 連携でのリモートからの電源投入/切断動作は以下の順序で行われます (図1.1を参照)。

電源投入時は、Windows 機の Systemwalker コンソールまたは運用管理クライアントから、本連携ソフトウェアの電源投入コマンドを介しネットワークを通して、PMAN装置へ電源投入指示を行います。電源投入が成功すると、PMAN装置へ接続しているサーバ機の電源が入ります(①)。

電源切断時は、クライアント機の Systemwalker コンソールまたは運用管理クライアントからネットワークを通して、サーバ機の Systemwalker へ通知を行います(②)。次に、サーバ機の Systemwalker から本連携ソフトウェアの電源切断コマンドを介しネットワークを通して、PMAN装置へ電源切断指示を行います(③)。PMAN装置は、電源切断指示を受けるとサーバ機のシャットダウンを行います(④)。シャットダウンが完了後、PMAN装置は電源切断を行います(⑤)。

※ Systemwalker Centric Manager 連携の場合

本連携ソフトウェアで提供される電源投入コマンドは、Systemwalker コンソールまたは運用管理クライアントにインストールします。電源切断コマンドは、サーバ機にインストールします。

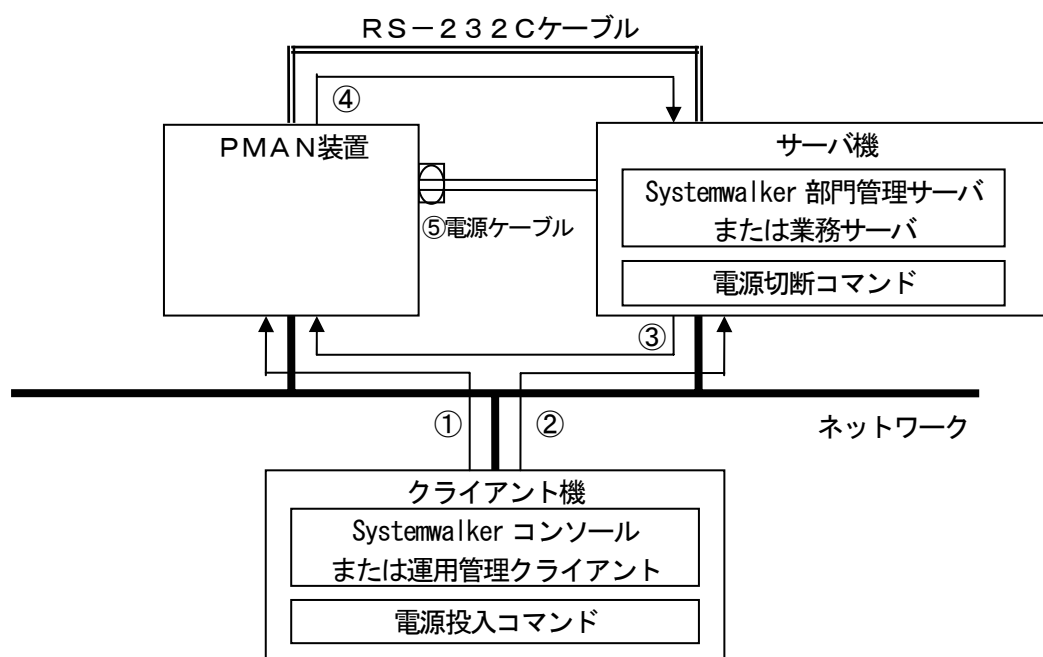


図1. 1 システム構成図

1.2 Systemwalker Operation Manager 連携でのスケジュール電源制御動作

Systemwalker Operation Manager 連携でのスケジュール電源制御動作は、以下の順序で行われます（図1.2を参照）。

サーバ機の Systemwalker Operation Manager サーバの電源制御のスケジュール設定を行います（①）。設定後、サーバ機の内部時計が電源切断時刻（②）になると、サーバ機の Systemwalker Operation Manager サーバから本連携ソフトウェアの電源切断コマンドを起動し、PMAN装置に電源切断指示を行います。その際、電源切断後の次の電源投入時刻を PMAN装置に指示します（③）。PMAN装置は、電源切断指示を受けるとサーバ機のシャットダウンを行います（④）。シャットダウンが完了後、PMAN装置は電源切断を行います（⑤）。PMAN装置の内部時計がサーバ機の電源投入時刻（⑥）になると、PMAN装置はサーバ機の電源投入を行います（⑦）。

※ Systemwalker Operation Manager のスケジュール電源制御機能を使用した連携の場合

本連携ソフトウェアで提供される電源切断コマンドは Operation Manager のサーバにインストールします。

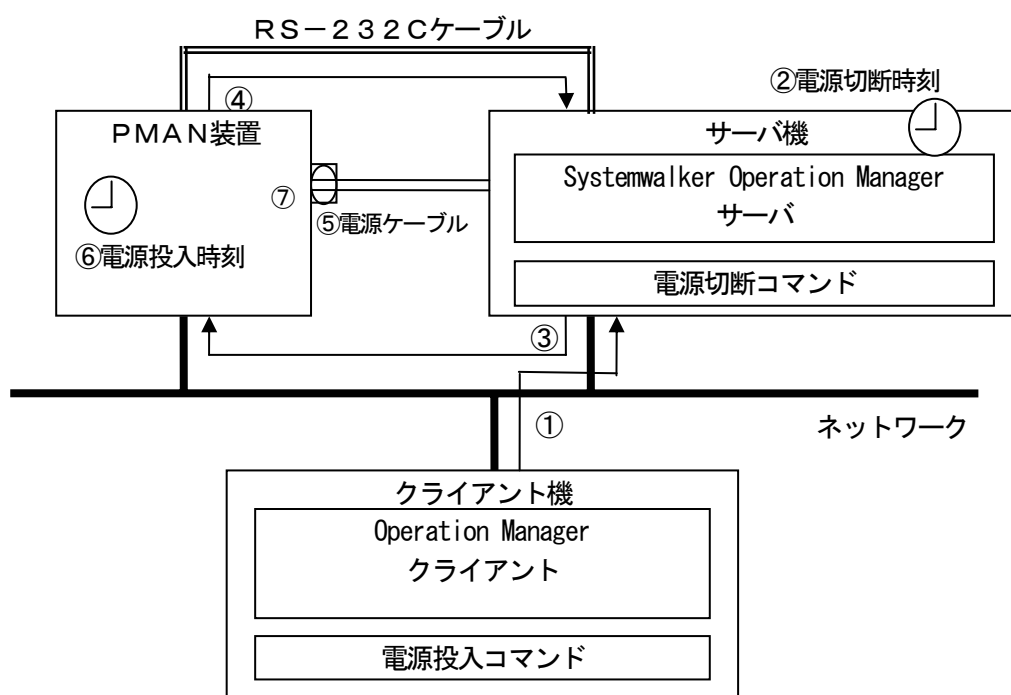


図1.2 Operation Manager 連携スケジュール電源制御システム構成図

1.3 Systemwalker Operation Manager 連携での一括電源制御動作

Systemwalker Operation Manager 連携での一括電源制御動作は、以下の順序で行われます。。

まず、一括電源投入の動作を記述します。(図1.3参照)

PMAN装置#1の内部時計により装置の電源投入時刻(①)になると、PMAN装置#1はSystemwalker Operation Manager サーバの動作するサーバ機の電源投入を行ないます(②)。Systemwalker Operation Manager サーバは起動時に本連携ソフトウェアの電源投入コマンドを介しネットワークを通して、PMAN装置#2及びPMAN装置#3へ電源投入指示を行います(③)。PMAN装置#2及びPMAN装置#3に接続している電源制御対象サーバの電源が投入されます(④)。

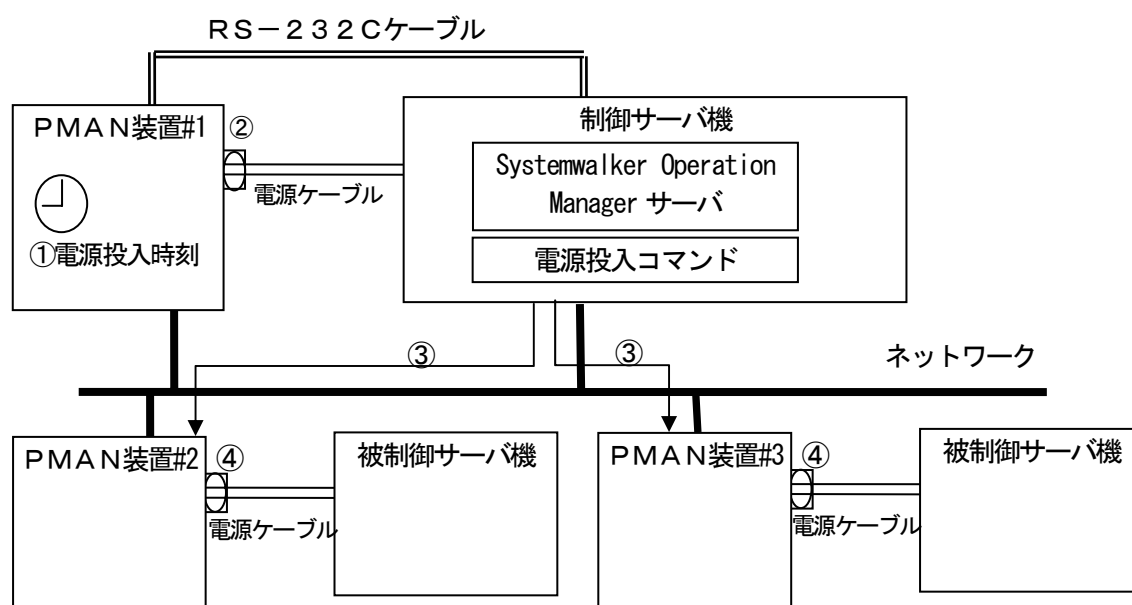


図1.3 Operation Manager 連携一括電源制御（投入）システム構成図

次に一括電源切断の動作を記述します。(図1.4参照)

制御サーバ機の内部時計が電源切断時刻になると、制御サーバ機のSystemwalker Operation Managerサーバはネットワークを通して、被制御サーバ機のSystemwalker Operation Managerサーバに切断指示を行います(②)。

切断指示を受け取った被制御サーバ機のSystemwalker Operation Managerサーバから本連携ソフトウェアの電源切断コマンドを起動し、PMAN装置に電源切断指示を行います(③)。PMAN装置は、電源切断指示を受けるとRS-232C経由でサーバ機のシャットダウンを行います。シャットダウンが完了後、PMAN装置は電源切断を行います(④)。

制御サーバ機のSystemwalker Operation Managerは全ての被制御サーバ機のSystemwalker Operation Managerサーバに電源切断指示を行った後、自身の電源切断動作を行います。本連携ソフトウェアの電源切断コマンドを起動し、PMAN装置に電源切断指示を行います。その際、電源切断後の次回の電源投入時刻をPMAN装置に指示します(⑤)。PMAN装置は、電源切断指示を受けるとRS-232C経由でサーバ機のシャットダウンを行います。

シャットダウンが完了後、PMAN装置は電源切断を行います(⑥)。

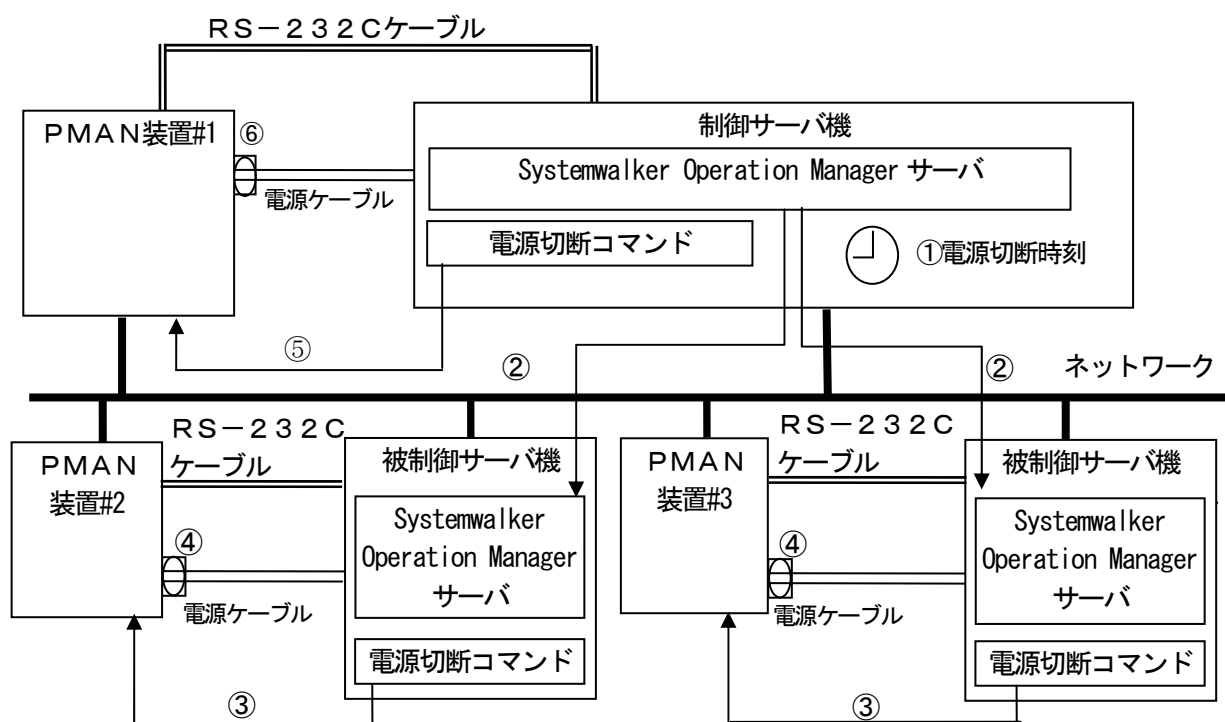


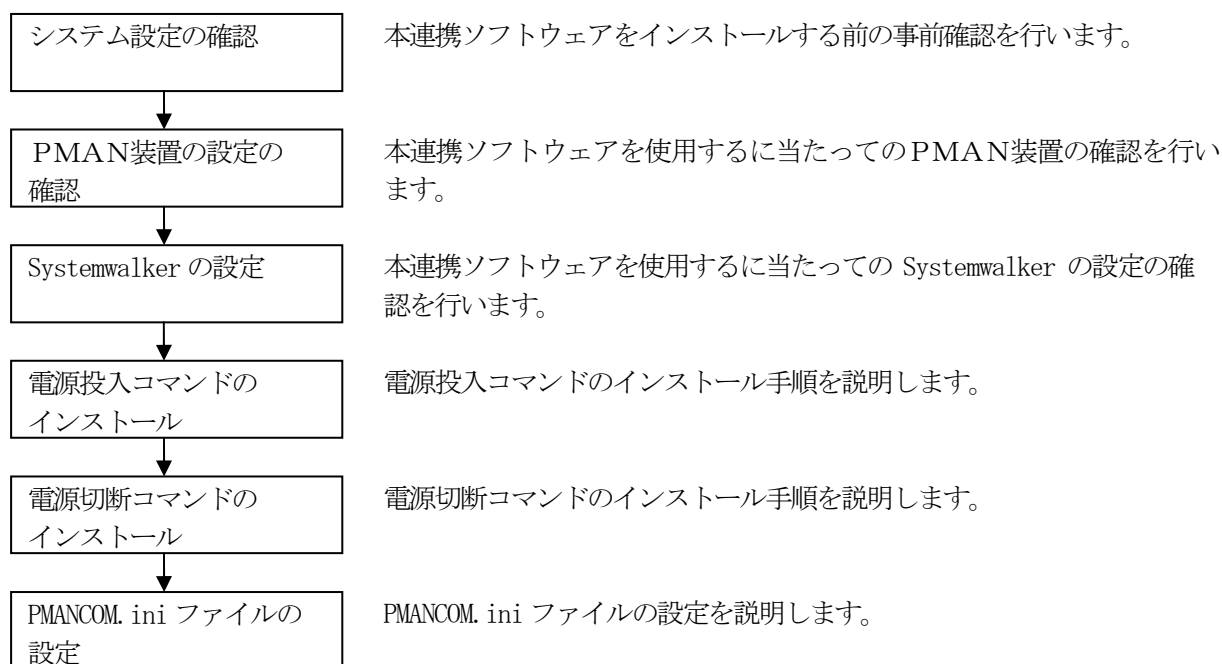
図1.4 Operation Manager 連携一括電源制御（切断）システム構成図

※ Systemwalker Operation Manager の一括電源制御機能を使用した連携の場合

本連携ソフトウェアで提供される電源投入コマンドと電源切断コマンドはOperation Managerのサーバにインストールします。

2 環境設定

本連携ソフトウェアの環境設定は以下の手順で行います。



以下に、それぞれの手順について詳述します。

2.1 システム設定の確認

本連携ソフトウェアをインストールする前に確認しておくべき項目について説明します。

2.1.1 サポート OS

本連携ソフトウェアの電源投入コマンドと電源切断コマンドは、以下の OS での動作をサポートします。

項	コマンド	サポート OS
1	電源投入	Windows Server ™2008 Enterprise Edition(x64) Windows Server ™2008 Standard Edition(x64) Windows Server ™2008 Enterprise Edition(x86) Windows Server ™2008 Standard Edition(x86) Windows Server ™2003 Standard x64 Edition (SP2 以降) Windows Server ™2003 Standard Edition (SP2 以降) Windows®2000 Server (SP4 以降) Windows®2000 Professional (SP4 以降) Windows Vista ™ Business Windows Vista ™ Enterprise Windows Vista ™ Home Basic Windows®XP Professional (SP2 以降) Windows®XP Home Edition (SP2 以降) 日本語Solaris ™10 オペレーティングシステム 日本語Solaris ™9 オペレーティングシステム 日本語Solaris ™8 オペレーティングシステム 日本語Solaris ™7 オペレーティングシステム(※) Red Hat® Enterprise Linux® 5(for Intel164) Red Hat® Enterprise Linux® 5(for x86) Red Hat® Enterprise Linux® AS(v.4 for EM64T) Red Hat® Enterprise Linux® ES(v.4 for EM64T) Red Hat® Enterprise Linux® AS(v4 for x86) Red Hat® Enterprise Linux® ES(v4 for x86)
2	電源切断	Windows Server ™2008 Enterprise Edition(x64) Windows Server ™2008 Standard Edition(x64) Windows Server ™2008 Enterprise Edition(x86) Windows Server ™2008 Standard Edition(x86) Windows Server ™2003 Standard x64 Edition (SP2 以降) Windows Server ™2003 Standard Edition (SP2 以降) Windows®2000 Server (SP4 以降) 日本語Solaris ™10 オペレーティングシステム 日本語Solaris ™9 オペレーティングシステム 日本語Solaris ™8 オペレーティングシステム 日本語Solaris ™7 オペレーティングシステム(※) Red Hat® Enterprise Linux® 5(for Intel164) Red Hat® Enterprise Linux® 5(for x86) Red Hat® Enterprise Linux® AS(v.4 for EM64T) Red Hat® Enterprise Linux® ES(v.4 for EM64T) Red Hat® Enterprise Linux® AS(v4 for x86) Red Hat® Enterprise Linux® ES(v4 for x86)

※Solaris™7 には本ソフトウェアのインストールに必要なgzipコマンドが含まれておりません。
別途、gzip コマンド(V1.2.4以降)を準備しインストールしておく必要があります。

2.1.2 サポートする Systemwalker のバージョン

本連携ソフトウェアは、以下のSystemwalkerのバージョン以降の動作をサポートします。

Systemwalker Centric Manager V13.1.0 以降

Systemwalker Operation Manager V13.1.0 以降

(注意) 下表のようにバージョンにより使用可能な機能は異なります。

Systemwalker Centric Manager		電源投入	電源切断
バージョン	動作 OS		
13.1.0	Windows	×	×
	Solaris	○	○
	Linux	×	×
13.2.0 以降	Windows	○	○
	Solaris	○	○
	Linux	○	○

Systemwalker Operation Manager		電源投入	電源切断
バージョン	動作 OS		
13.1.0	Windows	×	×
	Solaris	×	×
	Linux	×	×
13.2.0 以降	Windows	○	○
	Solaris	○	○
	Linux	○	○

※ Windows Server 2008 は 13.3.0 以降の Systemwalker Centric Manager 及び Systemwalker Operation Manager で対応します。

2.1.3 システムの確認

本連携ソフトウェアをインストールする前に、以下のことを確認して下さい。

- ・ Systemwalker をインストールし、セットアップ済であること。
- ・ PMAN装置がサーバ機に接続され、セットアップ済みであること。

Systemwalker のインストール及びセットアップについては、Systemwalker のマニュアル等をご参照下さい。

2.2 PMAN装置の設定の確認

本連携ソフトウェアを使用するにあたり、PMAN装置の設定を確認します。以下に確認する項目について説明します。

2.2.1 ファームウェアバージョン

本連携ソフトウェアは、以下のファームウェアバージョン以降のPMAN装置の動作をサポートします。

ROM Version : Ver. J 以降
 Boot ROM : CARROT Boot V3.20.040105.152943 以降
 Firm WARE : CARROT Main V3.20.040130.215655 以降

上記以前のファームウェアの場合は、ファームウェアをバージョンアップして下さい。ファームウェアのバージョンアップについては、担当保守員にご連絡下さい。

PMAN装置のファームウェアバージョンの確認方法についてはPMAN装置のマニュアルをご参照下さい。

2.2.2 PMAN装置の動作設定

本連携ソフトウェアを使用する場合は、PMAN装置が以下の設定になっている必要があります。設定の詳細は、PMAN装置のマニュアルをご参照ください。

項	機能	設定内容
1	スケジュール機能	無効 (*1)
2	リモート電源投入	許可
3	リモート電源切断	許可
4	スクリプト	ログイン、シャットダウンスクリプトが記述されていること (*2)
5	時刻	時刻合わせが完了していること

*1 : 電源切断時の Systemwalker のスケジュールによる電源投入設定ができないため (「4. 留意事項」参照)。

*2 : PMAN装置に接続している各種サーバによって異なります。PMAN装置のマニュアルをご参照下さい。

2.2.3 通信ポート

本連携ソフトウェアとPMAN装置はネットワークを介してTCP/IP通信を行います。本連携ソフトウェアでは、PMAN装置に設定しているポート番号を設定する必要があります。デフォルトは23番ポートを使用しますが、ポート番号の変更も可能です。ポート番号を変更する場合は、PMAN装置のマニュアルをご参照ください。また、複数のPMAN装置と連携する場合は、全てのPMAN装置のポート番号を同一にする必要があります。

2.2.4 PMAN装置の認証

本連携ソフトウェアとPMAN装置の通信には、ユーザID/パスワード認証を行います。本連携ソフトウェア用のユーザID/パスワードを準備し、PMAN装置に設定して下さい。また、本認証の設定も、複数のPMAN装置と連携する場合はユーザID/パスワードを同一にする必要があります。ユーザID/パスワードの設定方法はPMAN装置のマニュアルをご参照下さい。

2.3 Systemwalkerの設定

本連携ソフトウェアを使用する際は、Systemwalker 側の設定も必要になります。設定の手順を以下に示します。

2.3.1 Systemwalker Centric Managerの設定

PMAN装置のIPアドレスを設定する必要があります。以下の手順にて行います。

- ① [Systemwalker コンソール]で[機能選択]コンボボックスから[編集]を選択します。
→[Systemwalker コンソール[編集]]が表示されます。
- ② [Systemwalker コンソール[編集]]で、リモート電源制御を行う対象の部門管理サーバまたは業務サーバを選択します。
- ③ [オブジェクト]メニューから[プロパティ]を選択します。
→[ノードプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- ④ [電源制御]タブを選択します。
- ⑤ [電源制御装置あり]チェックボックスをチェックし、コンボボックスから[その他]を選択します。
- ⑥ [オプション]に”PMAN装置のIPアドレス”を設定します。

※ Systemwalker 設定の詳細については、Systemwalker Centric Manager のマニュアルをご参照ください。

2.3.2 Systemwalker Operation Managerの設定

スケジュール一括電源制御機能を使用する場合、およびWindows クライアントのユーザログオン時にサーバの電源投入を行う場合には以下の設定を行ってください。

• スケジュール一括電源制御機能を使用する場合

スケジュール機能や一括電源制御機能を使用するための操作手順についてはSystemwalker Operation Manager のマニュアルをご参照ください。

各設定の中で本連携ソフトウェアを使用する上で必須となる項目の設定手順については以下に記述します。

電源制御方法を設定し機能を有効にする必要があります。

- ① [Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの業務選択ウィンドウで[SYSTEM_CALENDAR]を選択し、[オプション]メニューから[電源制御設定]を選択します。
→[電源制御設定]ダイアログボックスが表示されます。

- ② ここで表示されたオプションの一覧の中から対象のサーバで使用する機能を選択します。
- [電源制御を行わない]
サーバの操作は手動のみとなり、本連携ソフトウェアの機能は使用できなくなります。
 - [自ホスト単体で制御を行う]
スケジュール電源制御機能が有効となります。
本連携ソフトウェアの電源切断コマンドを使用した連携が使用可能となります。
 - [ホストを制御ホストとして制御を行う]
一括電源制御機能が有効となり、自サーバがスケジュール管理を行う制御サーバとして動作します。
本連携ソフトウェアの電源投入/電源切断コマンドを使用した連携が使用可能となります。
 - [一括電源制御の対象として制御を行う]
一括電源制御機能が有効となり、自サーバは制御サーバから電源制御される対象の被制御サーバとして動作します。本連携ソフトウェアの電源切断コマンドを使用した連携が使用可能となります。

これらのいずれかを選択し、[OK]ボタンを選択します。もし、[ホストを制御ホストとして制御を行う]を選択した場合には[OK]を選択する前に以下の③以降の手順も実行してください。

- ③ [ホストを制御ホストとして制御を行う] のオプションボタンを選択すると[電源制御対象ホストの設定]ボタンが有効となります。このボタンを選択します。
- [電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスが表示されます。
- ④ この[電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスで被制御サーバの登録作業を行います。まず[追加]ボタンを選択します。
- [電源制御対象ホストの設定]ダイアログボックスが表示されます。
- ⑤ [電源制御対象ホスト名]に被制御サーバのサーバ名を登録します。ここで設定するサーバ名は後述するMpStrSv.iniに定義したサーバ名と一致している必要があります。
- また、[電源制御ソフトウェアの種類]として[その他(Systemwalker 対応電源ソフトウェア)]を選択します。
- これら以外の設定についてはご使用の環境にあわせて任意の値を設定してください。
(各設定値の内容についてはSystemwalker Operation Managerのマニュアルを参照してください。)
- 設定が終了したら[OK]ボタンを選択します。
- [電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスが表示されます。
- ⑤ 複数の被制御サーバを登録する場合には④～⑤の手順を繰り返してください。全サーバの登録が終了したら[電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスで[OK]ボタンを選択します。
- [電源制御設定]ダイアログボックスが表示されます。
- ⑥ [電源制御設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンを選択します。

また、システムの電源の自動投入・切断のために使用する電源制御ソフトウェアを指定する必要があります。

- ① [Systemwalker Operation Manager] ウィンドウの業務選択ウィンドウで[SYSTEM_CALENDAR]を選択し、[オプション]メニューから[電源制御スケジュール]を選択します。
→[電源制御スケジュール]ダイアログボックスが表示されます。

- ② [電源制御スケジュール] の[電源制御の選択]にて電源制御ソフトウェアを選択します。
本ソフトウェアを使用するには[その他(Systemwalker 対応電源制御ソフトウェア)]のオプションボタンを選択し[OK]を選択してください。

※ Systemwalker 設定の詳細についてはSystemwalker Operation Manager のマニュアルをご参照ください。

• Windows クライアントのユーザログオン時にサーバを起動したい場合

この機能を使用するには本連携ソフトウェアの電源投入コマンドをクライアント側のスタートアッププログラムとして登録する必要があります。

以下の手順で登録を行います。

- ① スタートアップにショートカットキーを作成します。

OSによって作成するフォルダ位置が異なります。

- Windows2000/XP の場合

C:\Documents and Settings\%UserName%\スタート メニュー\プログラム\スタートアップ

- WindowsVista の場合

C:\ユーザー\%UserName%\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタート メニュー\プログラム\スタートアップ

※%UserNameにはログオン対象のユーザ名を指定してください。

エクスプローラにて上記フォルダを指定し、マウスの右ボタンをクリックし表示されたメニューから[新規作成]→[ショートカット]を選択します。

→[ショートカットの作成]ダイアログボックスが表示されます。

- ② 表示されたダイアログボックスのテキストボックスに以下のコマンドラインを定義し、[次へ]を選択します。

本連携ソフトウェアのインストールディレクトリ\MpStrSv -h ホスト名 -uUPSIP アドレス

※ホスト名には後述する MpStrSv. ini に定義するサーバ名と同じ文字列を定義してください。

UPSIP アドレスにはPMAN装置の IP アドレスを指定してください。

→[名前の指定]ダイアログボックスが表示されます。

- ③ 任意の名前を指定して[完了]を選択します。

2.4 Windows機へのインストール

ここでは、Windows で動作する Systemwalker Centric Manager (運用管理クライアント、及び部門管理サーバ、業務サーバ)、及び Systemwalker Operation Manager (クライアント、サーバ) にインストールする本連携ソフトウェアのインストール手順について説明します。インストールするためのファイルは、PMAN装置に添付されているCD-ROM内の systemwalker¥win フォルダにあります。win フォルダの内容を以下に示します。

項	ファイル名	説明
1	MpStrSv.exe	電源投入コマンド
2	MpStpSv.exe	電源切断コマンド
3	PMANCOM.ini	PMAN装置のポート、ユーザID、リトライ間隔、リトライ回数、パスワード(暗号化)を記述したPMAN共通設定ファイル
4	MpStrSv.ini	電源投入コマンドで使用するサーバ設定ファイル。ホスト名/IPアドレス、PMAN装置のIPアドレス、コンセント番号を記述する。
5	MpStpSv.ini	電源切断コマンドで使用するサーバ設定ファイル。PMAN装置のIPアドレス、コンセント番号を記述する。
6	MpSetup.exe	PMANCOM.ini ファイルの値を変更、または作成するための設定ツール
7	msgfile.dll	イベントログの説明を表示するためのログメッセージDLL
8	regset.exe	msgfile.dll の場所をレジストリに登録し、PMANCOM.ini ファイルとMpStrSv.ini ファイルを書込み可能に変更するレジストリ設定ツール。
9	unregset.exe	regset.exe でレジストリに登録した内容を削除するレジストリ削除ツール。

2.4.1 インストール手順

本連携ソフトウェアは、以下の手順でインストールを行います。

- ① 管理者グループに所属するユーザでWindowsにログインします。
- ② PMAN装置に添付されるCD-ROMをドライブにセットしてから、systemwalker¥win フォルダをインストールするフォルダにコピーします。

例：E:¥がCD-ROMドライブ、C:¥にコピーしたい場合

- (1) CD-ROMをドライブにセットしてから、[マイコンピュータ]からCD-ROMドライブを開きます。
- (2) CD-ROMドライブ内の[Systemwalker]フォルダをダブルクリックし、[win]フォルダをコピーします。
- (3) [マイコンピュータ]からインストールを行うフォルダ(C:¥)を開き、[win]フォルダを貼り付けます。

(注意 1) Windows Vista をご使用の場合にはOSがインストールされているドライブの"Program Files"フォルダ配下、または"Windows"フォルダ配下にはコピーしないでください。

上述のフォルダはOSのユーザアクセス管理機能によりアクセスが保護されています。これらのフォルダの下に後述の各設定ファイルをおくとファイル編集できなくなる場合があります。

- ③ 本連携ソフトウェアのインストールフォルダをシステム環境変数のパスに追加します。例えば、win フォルダを C:¥にコピーした場合に追加するパス名は“C:¥win”となります。尚、システム環境変数へのパス追加については、OS のマニュアルをご参照下さい。
- ④ システムの再起動を実施します。
- ⑤ regset. exe を実行し、レジストリの登録を行います。
 コマンドプロンプトからインストールしたフォルダに移動して実行します。

例：win フォルダを C:¥にコピーした場合

```
C:¥> cd /d c:¥win <CR>
```

```
C:¥win> regset. exe <CR>
```

* 下線部は入力を示します。

<CR>はエンターキー入力を示します。

(注意 2) Windows Vista 及び Windows Server 2008 以降の OS にてユーザアクセス管理機能が有効な場合には regset. exe を実行すると実行の許可を確認するダイアログが表示される場合があります。その場合には「許可」ボタンをクリックして処理を継続してください。

(注意 3) regset. exe 実行後に、

“PATH の文字列を短くして下さい”

とメッセージが出た場合は、インストールするフォルダの絶対パス長が 248 バイト以上のためにレジストリに登録が行えていません。

絶対パスの文字列長を 247 バイト以内になるように、インストールする場所を変更して下さい。

- ⑥ MpStrSv. ini ファイルを環境に合わせた設定内容に書換えます。
 (詳細は以降の「2.6 MpStrSv. ini ファイルの設定」を参照して下さい)
- ⑦ MpStpSv. ini ファイルを環境に合わせた設定内容に書換えます。
 (詳細は以降の「2.7 MpStpSv. ini ファイルの設定」を参照して下さい)
- ⑧ MpSetup. exe を実行し、環境に合わせた設定を行います。
 コマンドプロンプトでインストールしたフォルダに移動して実行します (詳細は「2.8 PMANCOM. ini ファイルの設定」を参照ください)。

2.4.2 注意事項

本連携ソフトウェアをインストールするための注意事項を以下に説明します。

- (1) インストールする前に Systemwalker の設定を行う必要があります (詳細は「2.3 Systemwalker の設定」を参照ください)。
- (2) regset. exe の実行は、コマンドプロンプトからインストールしたフォルダに移動し実行して下さい。
- (3) インストール後にインストール先のフォルダ名を変更できません。変更する場合は、アンインストール後に再インストールして下さい。
- (4) インストールするフォルダの絶対パス名は最大 247 バイトです。

2.5 Solaris/Linux機へのインストール

ここでは Solaris または Linux で動作する Systemwalker Centric Manager (部門管理サーバ、業務サーバ)、及び Systemwalker Operation Manager (サーバ) にインストールする本連携ソフトウェアのインストール手順について説明します。インストールするためのファイルは、PMAN装置に添付されているCD-ROM内の下表に示すディレクトリ、及びファイル名にて存在します。

項	OS	場所	ファイル名
1	Solaris 版	systemwalker/solaris	pman1.1.1.tar.gz
2	Linux 版	systemwalker/linux	pman1.1.1.tar.gz

pman1.1.1.tar.gz を展開すると、展開先にディレクトリ”MpPman”を作成し、その配下に以下のファイルが展開されます。

項	ファイル名	説明
1	MpStrSv	電源投入コマンド
2	MpStpSv	電源切断コマンド
3	PMANCOM.ini	PMAN装置のポート、ユーザID、リトライ間隔、リトライ回数、パスワード(暗号化)を記述したPMAN共通設定ファイル
4	MpStrSv.ini	電源投入コマンドで使用するサーバ設定ファイル。ホスト名/IP アドレス、PMAN装置のIPアドレス、コンセント番号を記述する。
5	MpStpSv.ini	電源切断コマンドで使用するサーバ設定ファイル。ホスト名/IP アドレス、PMAN装置のIPアドレス、コンセント番号を記述する。
6	MpSetup	PMANCOM.ini ファイルの値を変更、または作成するための設定ツール

※ 本ソフトウェアを使用するには上記ファイル以外にインストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)を作成する必要があります。連携ソフトウェアはこのファイル内に記述されているインストールパス情報を参照して、各設定ファイルにアクセスします。

このファイルはインストール時点では存在しません。新規に作成してください。詳細については「インストール手順」をご参照ください。

2.5.1 インストール手順

本連携ソフトウェアの電源切断コマンドは、以下の手順でインストールを行います。

- ① 管理者グループに所属するユーザで Windows にログインします。
- ② Windows 系のコンピュータのドライブに CD-ROM をセットして、インストール機に ftp 等で pman1.1.1.tar.gz をインストールするディレクトリにコピーします。

例：Windows 機から Solaris 機へ FTP で送信する場合 (Windows 機の E:¥が CD-ROM ドライブの場合)

```
C:¥> cd /d e:¥systemwalker¥solaris<CR>
E:¥systemwalker¥solaris> ftp [Solaris機のIPアドレス]<CR>
(必要なユーザ名とパスワードを聞かれるので
適切な値を入力すること)
ftp> bin <CR>
ftp> cd /var <CR>
ftp> put pman1.0.5.tgz <CR>
```

*下線部は入力を示します。
<CR>はエンターキー入力を示します。

- ③ インストール機にてスーパーユーザ (root) でログインします。インストールしたディレクトリに移動し、pman1.1.1.tar.gz を展開します。インストールするディレクトリは絶対パスで最大 237 バイトです。

例：展開方法 (pman1.1.1.tar.gz をコピーしたディレクトリを /var/ とした場合)

```
# cd /var <CR>
# gzip -d -c pman1.1.1.tar.gz | tar xvf - <CR>
```

(注意) Solaris™7 には本ソフトウェアのインストールに必要な gzip コマンドが含まれておりません。別途、gzip コマンド (V1.2.4 以降) を準備しインストールしておく必要があります。

- ④ MpStrSv、及び MpStpSv のシンボリックリンクを作成します。連携するソフトによってリンクの作成先が変わります。
 - ・Systemwalker Centric Manager 連携の場合
作成先ディレクトリ： /opt/FJSVspwrc/bin/

例：PMAN 連携ソフトを /var/MpPman にインストールした場合

(シンボリックリンクの設定の詳細については、Systemwalker Centric Manager のマニュアルをご参照ください。)

```
# ln -s /var/MpPman/MpStrSv /opt/FJSVspwrc/bin/MpStrSv <CR>
```

```
# ln -s /var/MpPman/MpStpSv /opt/FJSVspwrc/bin/MpStpSv <CR>
```

- Systemwalker Operation Manager 連携の場合
作成先ディレクトリ: /opt/FJSVjmcsl/bin/

例: /var/MpPmanにインストールした場合
(シンボリックリンクの設定の詳細については、Systemwalker Operation Managerのマニュアルをご参照ください。)

```
# ln -s /var/MpPman/MpStrSv /opt/FJSVjmcsl/bin/MpStrSv <CR>
```

```
# ln -s /var/MpPman/MpStpSv /opt/FJSVjmcsl/bin/MpStpSv <CR>
```

※Systemwalker Centric Manager 及びSystemwalker Operation Manager のいずれの電源制御も使用する場合は、上記の手順に従い、それぞれシンボリックリンクを作成します。

- ⑤ インストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)を作成し、ファイル内にインストールディレクトリパスを1行で記述します。
書式は、以下の通りです。行の最後には、改行を入れてください。

```
インストールファイルパス
```

例: /var/MpPmanにインストールした場合

```
/var/MpPman
```

- ⑥ MpStrSv.ini ファイルを環境に合わせた設定内容に書換えます。
(詳細は以降の「2.6 MpStrSv.ini ファイルの設定」を参照して下さい)
- ⑦ MpStpSv.ini ファイルを環境に合わせた設定内容に書換えます。
(詳細は以降の「2.7 MpStpSv.ini ファイルの設定」を参照して下さい)
- ⑧ MpSetup を実行し、環境に合わせた設定を行います。
ログイン後、インストールしたディレクトリに移動して実行します。(詳細はの「2.8 PMANCOM.ini ファイルの設定」項を参照)

2.5.2 注意事項

電源切断コマンドをインストールするための注意事項を以下に説明します。

- (1) インストール後にインストール先のディレクトリ名は変更できません。変更する場合は、アンインストール後、再インストールを行って下さい。
- (2) インストールするディレクトリは絶対パスで最大237バイトです。

2.6 MpStrSv.ini ファイルの設定

MpStrSv.ini は電源投入コマンド (MpStrSv) で使用する設定ファイルです。
電源制御対象となるサーバ、及び、そのサーバの接続先となる PMAN 装置の情報を設定します。
以下に、記述方法について説明します。

2.6.1 MpStrSv.ini の記述方法

MpStrSv.ini ファイルはテキストエディタにて設定内容を記述します。記述形式は以下の通りです。

- ・ 項目間は、カンマ区切りです (項目の前後のスペースは不可)。
- ・ コメントは、行の先頭に"/"を用います。
- ・ 行の最後には、改行を入れます。
- ・ 複数行、記述可能です。

1行に記述する書式は、以下の通りです。

ホスト名/IP アドレス, PMAN 装置の IP アドレス, コンセント番号

(1) ホスト名 / IP アドレス

[説明]

PMAN装置に接続している端末のホスト名、または IP アドレスを記述します。

[文字列の長さ]

1~255 文字(スペースのみはできません)。

(2) PMAN装置のIPアドレス

[説明]

“ホスト名 / IP アドレス” に記述した端末が接続している PMAN 装置の IP アドレスを記述します。

[文字列の長さ]

7~15 文字

[文字列の内容]

〇〇〇.〇〇〇.〇〇〇.〇〇〇 0~255 の範囲

(3) コンセント番号

[説明]

“ホスト名 / IP アドレス” に記述した端末が接続している PMAN 装置のコンセント番号を記述します。

[文字列の長さ]

1 文字

[文字列の内容]

1~2[PMAN 50の場合]

1~8[PMAN 100の場合]

(4) 例 : MpStrSv. ini

```
// ホスト名/ I Pアドレス, PMAN 装置の IP アドレス, コンセント番号  
pman.ffc.co.jp, 192.168.10.230, 1  
192.168.10.1, 192.168.10.231, 2
```

2.6.2 注意事項

- ・ファイルの 1 行の最大文字数は 2047 バイトです。

2.7 MpStpSv.ini ファイルの設定

MpStpSv.ini は電源切断コマンド (MpStpSv) で使用する設定ファイルです。電源制御対象となるサーバの接続先となる PMAN 装置の情報を設定します。以下に、記述方法について説明します。

2.7.1 MpStpSv.ini の記述方法

MpStpSv.ini ファイルはテキストエディタにて設定内容を記述します。記述形式は以下の通りです。

- ・ 項目間は、カンマ区切りです (項目の前後のスペースは不可)。
- ・ コメントは、行の先頭に"/"を用います。
- ・ 行の最後には、改行を入れます。
- ・ 複数行、記述可能です。

1行に記述する書式は、以下の通りです。

PMAN 装置の IP アドレス, コンセント番号

(1) PMAN装置のIPアドレス

[説明]

サーバが接続している PMAN 装置の IP アドレスを記述します。

[文字列の長さ]

7~15 文字

[文字列の内容]

〇〇〇.〇〇〇.〇〇〇.〇〇〇 0~255 の範囲

(2) コンセント番号

[説明]

サーバが接続している PMAN 装置のコンセント番号を記述します。

[文字列の長さ]

1 文字

[文字列の内容]

1~2 [PMAN 50 の場合]

1~8 [PMAN 100 の場合]

(3) 例 : MpStpSv.ini

// 自 PMAN 装置の IP アドレス, コンセント番号 192.168.10.230,1 192.168.10.230,2
--

2.7.2 注意事項

- ・ ファイルの 1 行の最大文字数は 2047 バイトです。

2.8 PMANCOM.iniファイルの設定

PMANCOM.ini ファイルはPMAN装置へログインするための共通設定ファイルです。設定項目は、PMAN装置のポート番号、PMAN装置へログインするためのユーザIDとパスワード、リトライ間隔とリトライ回数です。各項目の変更は、MpSetup 設定ツールを用いることでPMANCOM.ini ファイルの書換えを行います。

2.8.1 MpSetup 設定ツールの使用方法

MpSetup 設定ツールは、PMAN装置のポート番号、PMAN装置へログインするユーザIDとパスワード、リトライ間隔、リトライ回数の変更を対話形式で行います。対話形式で、現在設定されている値を示しながら設定を行います。(PMANCOM.ini ファイルが存在しない、またはPMANCOM.ini ファイルが正常に読めない場合は、デフォルトの値を表示します。ただし、パスワードは入力値も以前の値も表示しません。) また、改行のみを入力すると、現在設定されている値(PMANCOM.ini ファイルが存在しない、またはPMANCOM.ini ファイルが正常に読めない場合はデフォルトの値)を使用します。

MpSetup 設定ツールは、以下の仕様で動作します。

- Ctrl+C で、処理の中断が可能です。但し、それまでに設定した値は反映はされません。
- MpSetup 設定ツールの実行は、インストールしたディレクトリに移動して実行して下さい。
- MpSetup 設定ツールを実行する際は、
 - (1) 電源投入コマンド、電源切断コマンドが実行していないこと。
 - (2) PMANCOM.ini ファイルを開いていないこと。を確認します。
- 以下の場合にはエラーとなり再入力を促されます。
 - 各項目の不正な文字が入っている場合
 - 各項目での入力した数値の範囲を超えている場合
 - 各項目で、256 文字以上入力した場合
(“Input Over!!” と表示され、再入力となります)
 - Password と Re-enter Password が一致しない場合
(No Match. と表示されPassword から再入力となります)
- 引数はありません。引数を与えた場合は、処理を実行しません。

MpSetup 設定ツールでは、下記項目の設定が行えます。

項	項目	説明	設定できる範囲	エラー時の表示内容 (再入力)
1	Port(*1)>	PMAN装置のTCPのポート番号	0~65535 数字のみ	Port[0-65535] Port(*1)>
2	UserName(*1)>	PMAN装置へログインするユーザID	文字列長は8文字 半角英数字のみ	UserName(*1)>
3	PASSWORD>	PMAN装置へログインするためのパスワード	文字列長は8文字 半角英数字のみ	PASSWORD>
4	Re-PASSWORD>	項3で入力したパスワードの再確認	文字列長は8文字 半角英数字のみ	PASSWORD>
5	WAIT(*1)>	PMAN装置へのリトライ間隔時間	1~99 数字のみ	WAIT[1-99]
6	RETRY(*1)>	PMAN装置へのリトライ回数	0~9 数字のみ	RETRY[0-9]

(*1) 以前設定した値(PMANCOM.ini ファイルが正常に読めない、またはPMANCOM.ini ファイルが存在しない場合はデフォルト値)が表示されます。

例: MpSetup 設定ツールを実行したインタフェース(以下、Solaris 版の例)

```
# ./MpSetup
PORT(23)> 30001<CR>    ← ポート番号を例として 30001 を指定
UserName(root)> <CR>    ← ユーザIDを例としてrootのままに指定
PASSWORD> <CR>        ← パスワード入力
Re-PASSWORD> <CR>    ← パスワード再入力
WAIT(5)> 10<CR>      ← リトライ間隔を例として 10 秒を指定
RETRY(5)> 3<CR>      ← リトライ回数に例として 3 回を指定
#
```

* 下線部は入力を示します。
<CR>はエンターキー入力を示します。

Windows 版の場合も MpSetup を実行すると、上記のインターフェイスで設定を行うことができます。

2.8.2 PMANCOM.ini ファイルの説明

MpSetup で生成する PMANCOM.ini ファイルは内容が確認できるようにテキストファイルで保存されます。以下に記述内容を示します。

※テキストエディタ等で PMANCOM.ini ファイルを直接編集しないでください。設定変更には必ず MpSetup 設定ツールをご使用ください。

1行の書式は、以下の通りです。

PMAN装置のポート番号, ユーザ名, リトライ間隔, リトライ時間, パスワード

(1) ポート番号

[説明]

現在設定されているPMAN装置のTCPのポート番号です。

[初期設定値]

23

(2) ユーザID

[説明]

現在設定されているPMAN装置へログインするユーザIDです。

[初期設定値]

root

(3) リトライ間隔

[説明]

現在設定されているリトライ間隔時間です。PMAN装置がBusy状態である時に、再接続する際に使用します。単位は[秒]

[初期設定値]

5

(4) リトライ回数

[説明]

現在設定されているリトライ回数です。PMAN装置がBusy状態である時に、再接続する際に使用します。単位は[回]

[初期設定値]

5

(5) パスワード

[説明]

現在設定されているPMAN装置へログインするためのパスワードです。暗号化されています。

[初期設定値]

carrot

(6) 例:PMANCOM.ini

```
// port, UserName, wait, retry, Password(enc)  
23, root, 5, 5, ?64=:62>90054=49?6?8>4734<23902>9009;?363561<1?214
```

3 運用

本連携ソフトウェアの運用について説明します。

本連携ソフトウェアの Systemwalker での使用方法については、Systemwalker Centric Manager または Systemwalker Operation Manager のマニュアルをご参照ください。

3.1 電源投入コマンド

電源投入コマンドの使用法とイベントログを説明します。

3.1.1 電源投入コマンドの使用法

電源投入コマンドは、以下の手順で使用します。

[Systemwalker Centric Manager で使用する場合]

Systemwalker コンソールからリモート電源投入機能で使用します。以下の手順にて操作します。

- ① [Systemwalker コンソール]で[機能選択]コンボボックスから[監視]を選択します。
→[Systemwalker コンソール[監視]]が表示されます。
 - ② [Systemwalker コンソール[監視]]で、リモート電源制御を行う対象の部門管理サーバまたは業務サーバを選択します。
 - ③ [操作]メニューから[指定オブジェクト]を選択し、[リモートで電源を投入]を選択します。
- ※ Systemwalker からの操作の詳細については、Systemwalker Centric Manager のマニュアルをご参照下さい。

[Systemwalker Operation Manager で使用する場合]

一括電源制御機能を使用する場合で、自サーバを一括電源制御のスケジュール管理を行うサーバ(制御サーバ)として登録する場合に使用します。(この機能を使用するには本連携ソフトをインストールしたサーバ以外に被制御対象となるサーバが必要となります。)

この機能はスケジュール電源制御機能と共に使用されます。このため、本連携ソフトウェアの電源投入コマンド以外に電源切断コマンドも必要とします。

一括電源制御機能を使用するには以下の設定を行います。

- ①[Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの業務選択ウィンドウで[SYSTEM_CALENDAR]を選択し、[オプション]メニューから[電源制御設定]を選択します。
→[電源制御設定]ダイアログボックスが表示されます。
- ②[自ホストを制御ホストとして制御を行う]のオプションボタンをチェックします。この時、画面上の[電源制御対象ホストの設定]ボタンが有効となります。このボタンを選択します。
→[電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスが表示されます。

③この[電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスで被制御サーバの登録作業を行います。まず[追加]ボタンを選択します。

→[電源制御対象ホストの設定]ダイアログボックスが表示されます。

④ [電源制御対象ホスト名]に被制御サーバのサーバ名を登録します。ここで設定するサーバ名は MpStrSv. ini に定義したサーバ名と一致している必要があります。

また、[電源制御ソフトウェアの種類]として[その他(Systemwalker 対応電源ソフトウェア)]を選択します。

これら以外の設定についてはご使用の環境にあわせて任意の値を設定してください。

(各設定値の内容については Systemwalker Operation Manager のマニュアルを参照してください。)

設定が終了したら[OK]ボタンを選択します。

→[電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスが表示されます。

⑤ 複数の被制御サーバを登録する場合には③～④の手順を繰り返してください。全サーバの登録が終了したら[電源制御対象ホスト一覧]ダイアログボックスで[OK]ボタンを選択します。

→[電源制御設定]ダイアログボックスが表示されます。

⑥ [電源制御設定]ダイアログボックスで[OK]ボタンを選択します。

以上で一括制御の設定が終了します。

この状態でスケジュール電源投入時刻を設定し「接続サーバの停止」を実行するか、スケジュールでサーバの電源切断を実行すると、次のスケジュール電源投入時刻に被制御サーバの電源も投入されるようになります。

※ スケジュール電源制御の詳細については、Systemwalker Operation Manager のマニュアルをご参照下さい。本連携ソフトウェアの使用法の一例として「接続サーバの停止」操作については本マニュアルの「3.2.1 電源切断コマンドの使用法」に記述します。Systemwalker Operation Manager のマニュアルと共にご参照ください。

3.1.2 ログメッセージ

電源投入コマンドは、下表のログメッセージを出力します。各OS環境での出力先は以下のようになります。

Solaris 版, Linux 版：ユーザ (LOG_USER) として Syslog に出力する。

Windows 版：ソースは MpStrSv, イベント名はアプリケーションとし、イベントログに出力する。

イベント ID	種類	記述(syslog)	記述(イベント)	説明	解決策
300	情報	INFO: [00300] MpStrSv Command Start. [コマンド名 引数]	MpStrSv コマンドを開始します。[コマンド名 引数]	コマンドが開始しました	

イベント ID	種類	記述(syslog)	記述(イベント)	説明	解決策
301	警告	WARNING: [00301] PMAN50/100 is busy. Re-Connecting. [回数]	PMAN50/100 が他から接続中です。再接続します[回数]	PMAN 装置に、別端末からログインしている可能性があります。又は、別端末から電源投入/切断が行われています。現在、[回数]回目の再接続を行います。	リトライするか別端末からのログインを解除して下さい。
302	エラー	ERROR: [00302] Retry over.	PMAN50/100 が他から接続中です。再接続を規定回数行いましたが、接続ができませんでした。	PMAN 装置に、ログインできないため、リトライしましたが、接続できませんでした。	リトライするか別端末からのログインを解除して下さい。
303	エラー	ERROR: [00303] Timeout Error.	LAN の通信でタイムアウトが発生しました。	PMAN装置との接続でタイムアウトになりました。	LAN ケーブルが抜けているか、HUB の電源が落ちているなどのネットワークの異常が考えられます。
304	エラー	ERROR: [00304] Force disconnected.	LAN の通信で強制切断されました。	管理 COM が接続され強制切断されました。	PMAN 装置の管理 COM を切断して下さい。
305	エラー	ERROR: [00305] Command error. [PMAN50/100 から受信したメッセージ]	PMAN50/100 からの受信コマンドがエラーです。[PMAN50/100 から受信したメッセージ]	PMAN 装置に送信したコマンドに対して、正常な応答が返ってきませんでした。	エラー内容にて、パラメータ、または設定ファイルの値を確認してください。
306	エラー	ERROR: [00306] Parameter Error [パラメータ]	与えられたパラメータが不正です。[パラメータ]	パラメータ値に間違いがあります。	パラメータ、または設定ファイルの値の内容を確認してください。
307	エラー	ERROR: [00307] No config file. [ファイル名]	設定ファイルがありません。[ファイル名]	[ファイル名]で表示された設定ファイルが存在しないか、または実行環境が Solaris/Linux の場合にはインストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)の記述内容が正しくありません。	[ファイル名]で表示された設定ファイルを作成してください。 Solaris/Linux の場合にはインストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)が存在するか、あるいは記述内容が正しいかも確認してください。
308	エラー	ERROR: [00308] Config file error. [行数, 項目]	設定ファイルの内容に間違いがあります。[行数, 項目]	設定ファイルの[行数]と[項目]に間違いがあります。	設定ファイルの[行数]と[項目]を確認してください。

(注意) イベント ID305 は受信したメッセージを表示します。受信メッセージの中に改行がある場合は、ログも改行して表示されます。

3.2 電源切断コマンド

電源切断コマンドの使用方法和システムログを説明します。

3.2.1 電源切断コマンドの使用方法

電源切断コマンドは、以下の手順で使用します。

[Systemwalker Centric Manager で使用する場合]

Systemwalker コンソールからリモート電源投入機能で使用します。以下の手順にて操作します。

- ① [Systemwalker コンソール]で[機能選択]コンボボックスから[監視]を選択します。
→[Systemwalker コンソール[監視]]が表示されます。
- ② [Systemwalker コンソール[監視]]で、リモート電源制御を行う対象の部門管理サーバまたは業務サーバを選択します。
- ③ [操作]メニューから[指定オブジェクト]を選択し、[リモートで電源を切断]を選択します。

※ Systemwalker からの操作の詳細については、Systemwalker Centric Manager のマニュアルをご参照下さい。

[Systemwalker Operation Manager で使用する場合]

スケジュール電源制御機能、および一括電源制御機能で使用します。

ここでは操作の一例として「接続サーバの停止」操作の手順について記述します。

- ①[Systemwalker Operation Manager]ウィンドウの業務選択ウィンドウで[SYSTEM_CALENDAR]を選択し、[オプション]メニューから[接続サーバの停止]を選択します。
→[接続サーバの停止]ダイアログボックスが表示されます。
- ②[電源を切断する (シャットダウンする)]のオプションボタンをチェックし[OK]ボタンを選択します。

※ その他、スケジュール機能等、Systemwalker からの操作の詳細については、Systemwalker Operation Manager のマニュアルをご参照下さい。

3.2.2 ログメッセージ

電源切断コマンドは、下表のログメッセージを出力します。各OS環境での出力先は以下のようになります。

Solaris 版, Linux 版 : ユーザ (LOG_USER) として Syslog に出力する。

Windows 版 : ソースは MpStrSv, イベント名はアプリケーションとし、イベントログに出力する。

イベント ID	種類	記述(syslog)	記述(イベント)	説明	解決策
300	情報	INFO: [00300] MpStpSv Command Start. [コマンド名 引数]	MpStpSv コマンドを開始します。 [コマンド名 引数]	コマンドが開始しました	
301	警告	WARNING: [00301] PMAN50/100 is busy. Re-Connecting. [回数]	PMAN50/100 が他から接続中です。再接続します [回数]	PMAN 装置に、別端末からログインしている可能性があります。又は、別端末から電源投入/切断が行われています。現在、[回数]回目の再接続を行います。	リトライするか別端末からのログインを解除して下さい。
302	エラー	ERROR: [00302] Retry over.	PMAN50/100 が他から接続中です。再接続を規定回数行いましたが、接続できませんでした。	PMAN 装置に、ログインできないため、リトライしましたが、接続できませんでした。	リトライするか別端末からのログインを解除して下さい。
303	エラー	ERROR: [00303] Timeout Error.	LAN の通信でタイムアウトが発生しました。	PMAN装置との接続でタイムアウトになりました。	LAN ケーブルが抜けているか、HUB の電源が落ちているなどのネットワークの異常が考えられます。
304	エラー	ERROR: [00304] Force disconnected.	LAN の通信で強制切断されました。	管理 COM が接続され強制切断されました。	PMAN 装置の管理 COM を切断して下さい。
305	エラー	ERROR: [00305] Command error. [PMAN50/100 から受信したメッセージ]	PMAN50/100 からの受信コマンドがエラーです。 [PMAN50/100 から受信したメッセージ]	PMAN 装置に送信したコマンドに対して、正常な応答が返ってきませんでした。	エラー内容にて、パラメタ、または設定ファイルの値を確認してください。
306	エラー	ERROR: [00306] Parameter Error [パラメタ]	与えられたパラメタが不正です。 [パラメタ]	パラメタ値に間違いがあります。	パラメタ、または設定ファイルの値の内容を確認してください。

イベント ID	種類	記述(syslog)	記述(イベント)	説明	解決策
307	エラー	ERROR: [00307] No Config file. [ファイル名]	設定ファイルがありません。 [ファイル名]	[ファイル名]で表示された設定ファイルが存在しないか、または実行環境がSolaris/Linux の場合にはインストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)の記述内容が正しくありません。	[ファイル名]で表示された設定ファイルを作成してください。 Solaris/Linux の場合にはインストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)が存在するか、あるいは記述内容が正しいかも確認してください。
308	エラー	ERROR: [00308] Config file error. [行数, 項目]	設定ファイルの内容に間違いがあります。 [行数, 項目]	設定ファイルの[行数]と[項目]に間違いがあります。	設定ファイルの[行数]と[項目]を確認してください。

(注意) イベント ID305 は受信したメッセージを表示します。受信メッセージの中に改行がある場合は、ログも改行して表示されます。

4 留意事項

本連携ソフトウェアを使用するにあたっての留意事項について説明します。

4.1 通信ポートについて

本連携ソフトウェアは、電源投入/切断の両コマンドでネットワークを介してTCP/IP通信を行います。デフォルトは23番ポート(PMAN装置)を使用します。ポート番号23番を利用できない場合は、PMAN装置のポート番号を変更して下さい。また、MpSetup 設定ツールにて変更したポート番号も設定して下さい(PMAN装置に設定したポート番号と同じ番号)。

4.2 PMAN装置のスケジュール設定

本連携ソフトウェアで運用するためには、PMAN装置のスケジュール設定を無効にする必要があります。PMAN装置のスケジュールが有効の場合は、本連携ソフトウェアは電源切断のみを行い、自動起動を行いません。

4.3 PMAN100のキースイッチについて

本連携ソフトウェアで運用する場合は、PMAN100のキースイッチを必ずLOCK状態にして下さい。OPERATE状態では電源制御ができません。

4.4 運用中のtelnet 接続/管理COM接続

本連携ソフトウェアで運用中に、PMAN装置にtelnet 接続/管理COM接続を行わないで下さい。本連携ソフトウェア動作時に接続の競合が発生し、電源制御ができません。

4.5 PMAN装置の共通設定について

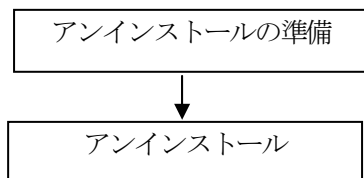
本連携ソフトウェアの運用に使用する各々のPMAN装置には共通のユーザID(管理者権限)、パスワード、ポート番号を用意してください。また、PMANCOM.ini ファイルを変更する際には必ずMpSetup 設定ツールを使用して下さい。

4.6 MpStrSv.ini、MpStpSv.ini ファイルのエラー行以降の処理について

本連携ソフトウェアで使用するMpStrSv.ini ファイル(電源投入コマンドの設定ファイル)、MpStpSv.ini ファイル(電源切断コマンドの設定ファイル)においてエラーがあった場合は、動作環境がWindowsの場合にはイベントログに、Solaris/Linuxの場合にはシステムログにエラーメッセージ(ID308)を出力します。電源投入/切断処理は、エラー行の直前まで処理を行いますが、エラー行以降の処理は行いません。

5 アンインストール

本連携ソフトウェアのアンインストールは以下の手順で進めます。



5.1 Windows機でのアンインストール

(1) アンインストールの準備

下記項目を確認します。

- ・各コマンドが実行中でないこと。
- ・必要であれば、設定ファイルのバックアップを行ってあること。
※設定ファイルのバックアップは、コピーコマンド等を利用して行ってください。

(2) アンインストール手順

- ① 管理者ユーザでログインします。
- ② コマンドプロンプトからインストールしたフォルダに移動し、unregset.exe を実行します。
- ③ インストール時にコピーしたフォルダをフォルダごと削除します。
- ④ インストール時にシステム環境変数の「Path」に登録した本連携ソフトウェアのインストールフォルダのパスをシステム環境変数の「Path」から削除します。

(3) 注意事項

電源投入コマンドをアンインストールするための注意事項を以下に説明します。

- ・unregset.exe の実行は、インストールしたフォルダに移動して実行して下さい。
- ・インストールフォルダの削除は、コマンドプロンプトにてインストールしたフォルダに移動していないことを確認してから行ってください。
- ・インストールフォルダの削除は、Systemwalker を停止してから行って下さい。(Systemwalker がmsgfile.dll を使用している場合があります)。
※ Systemwalker の停止方法の詳細については、Systemwalker のマニュアルをご参照して下さい。
- ・インストールフォルダの削除は、イベントビューアも停止してから行って下さい。(イベントビューアにてmsgfile.dllを使用しています)。
- ・Windows Vista 及び Windows Server 2008 以降の OS にてユーザアクセス管理機能が有効な場合には unregset.exe を実行すると実行の許可を確認するダイアログが表示される場合があります。その場合には「許可」ボタンをクリックして処理を継続してください。

5.2 Solaris/Linux機でのアンインストール

(1) アンインストールの準備

下記項目を確認します。

- ・各コマンドが実行中でないこと。
- ・必要であれば、設定ファイルのバックアップを行ってあること。
※設定ファイルのバックアップは、コピーコマンド等を利用して行ってください。

(2) アンインストール手順

- ① スーパーユーザ(root)でログインします。
- ② インストール時にコピーしたディレクトリをディレクトリごと削除します。
- ③ インストール時に作成したシンボリックリンクを削除します。
 - ・ /opt/FJSVspwrc/bin/MpStrSv
 - ・ /opt/FJSVspwrc/bin/MpStpSv

- /opt/FJSVjmc1/bin/MpStrSv
 - /opt/FJSVjmc1/bin/MpStpSv
- ④ インストール時に作成したインストールパス設定ファイル(/etc/mppman.conf)を削除します。